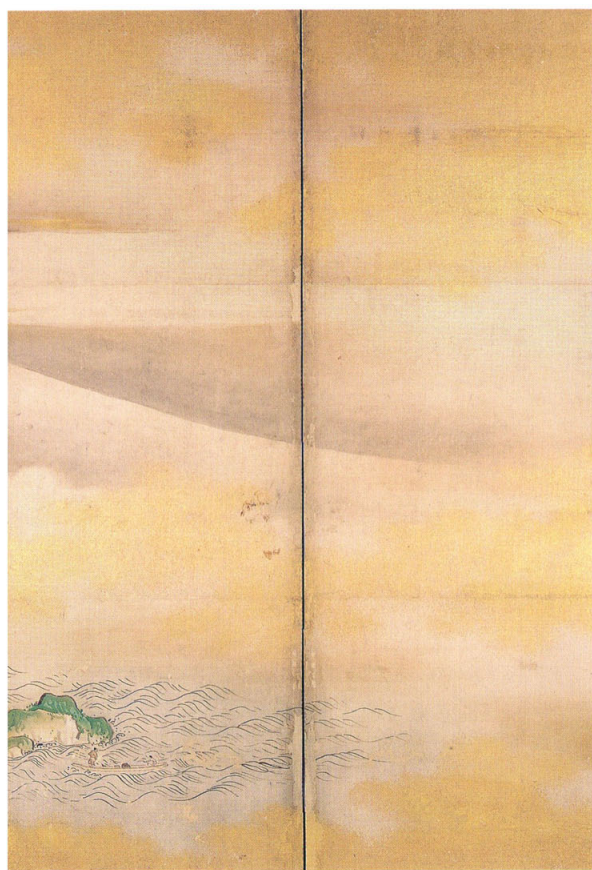




右隻



左隻



10 富嶽清見寺図屏風 狩野常信
紙本着色 江戸時代(十七、十八世紀)
各縦一八四・五 幅三八〇・八

六曲一双

右隻に三保の松原、左隻に富士山と清見寺を描く、いわゆる「富士・三保松原図」である。今回は旧桂宮家伝来のままの名称で紹介している。
伝能阿弥の「三保松原図屏風」以来、名所絵としてその構図の形式が成立し、向かって右方から突き出る羽衣岬と三保松原、入り海を介して左方に富士山を背に清見関や清見寺を配する定型に基づき、筆者によって若干の変化を加えて描かれ続けた題材である。この屏風の場合、各隻とも手前に人々の生活風景が描かれ、三保松原は春、清見寺は秋という季節を設定して描かれている。
狩野常信(一六三六―一七二三)は、狩野探幽の弟である尚信の長男で、十五歳より探幽に引き取られて画才を修練した。將軍家の絵師としての画業をよく熟し、また宝永六年(一七〇九)には紫宸殿に賢聖障子を描いている。本屏風は、大画面の中に細やかな描写を柔らかい筆緻と淡彩で書き上げ、さらりとした情趣を表現する常信の一面がよく現れた作品である。両隻下端に、「常信筆」と「寒雲子(角印)」の落款印章がある。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

旧桂宮家伝来の美術——雅と華麗

三の丸尚蔵館展覧会図録 No.13

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 大塚巧藝社

翻訳 鶴岡厚生

発行 宮内庁

平成八年九月二十一日発行

© 1996, Museum of the Imperial Collections